

果樹病虫害発生予察調査結果（9月25日調査分）
（三条、加茂、田上地域）

9月25日（火）に実施した予察調査結果をお知らせいたします。

（モ モ）

せん孔細菌病については、秋期防除の時期です。

秋季感染の増加によって、翌春の春型病班の増加につながりますので、収穫を終了した園地では9月、10月にボルドー液での防除を必ず実施し秋季感染と翌春の発病を防止して下さい。

モモハモグリガについては、フェロモントラップによる誘殺数が増加しています。各自園地を確認し発生が多いようであれば収穫後の防除を実施してください。

（ナ シ）

定点園地ごとに5新梢について調査したところ、セイヨウナシ褐色斑点病は降雨の影響もあり発病が拡大してきており、園地によっては、進展病斑による果実落果も確認されています。落葉期を待たず適宜収集を実施し罹病葉、罹病果はできる限り取り除き適正に処分してください。

黒星病については、秋型病班が確認されました。

今年は比較的発生量が多く、10月以降に枝の芽基部の感染が拡大する可能性があります。収穫後の防除を徹底するとともに多発生園では落葉収集を検討し、翌年の菌密度の低下を図ってください。

越冬害虫で今年発生が多かったハダニ類やニセナシサビダニ、ナシヒメシクイは、粗皮下や粗皮間隙、枝の切り口、結束なわ等で越冬します。

次年度の密度を下げるためにも、バンド誘殺を行うようにしましょう。

（バンド誘殺を行う場合は翌年の3月中旬までに処分してください。

また、受粉樹についても同様の対策をお願いします）

※薬剤防除を実施する場合は使用期間、回数、収穫前日数、隣接

園の状況や飛散に十分注意してください。

なお、これに関連した病害虫情報や生育情報等については農業普及指導センターよりJAをとおして情報が送付される予定です。

※今回で調査員の皆様からの調査は終了となります。1年間、御協力ありがとうございました。

○本日実施した予察調査結果については、組合ホームページ上でも御確認いただけます。

担当：果樹共済係

TEL 0258-36-8105

FAX 0258-34-8020